



感染防止の心得



長崎大学長 **片峰 茂**
Katamine Shigeru

今年はじめメキシコに出現した新型インフルエンザウイルスがまたたく間に世界中に拡がり、この秋から冬にかけて大流行が予想されています。人類は前世紀に新型インフルエンザウイルスの出現を4回経験しました。最も被害が大きかったとされる1918年のスペイン風邪は、世界で数千万人の命を奪い、その流行が第一次世界大戦の帰趨を決したともいわれています。今回も、大きな人的被害とともに大学の入学試験など社会的機能への影響が心配です。いずれほとんどの人がこのウイルスに感染することになるでしょうが、問題は流行のスピードです。短期間に多くの人間が感染してしまうことになれば、医療体制はパンクし対応できなくなります。そして重症者の中から多くの死者が出ることになってしまうでしょう。流行のスピードを少しでも遅くする必要があります。医療体制の整備やワクチンの確保と適正配布など行政の役割も大きいのですが、個人の普段の努力も重要な役割を果たします。手洗い、うがいの励行、そして咳エチケットを徹底しましょう。症状が出たら、外出を自粛しましょう。一人ひとりが感染は自分が止める意識をもつことが大事なのです。

平成二十一年 神無月

| CONTENTS |

【特集】 パンデミック～新型インフルエンザの脅威に立ち向かう長崎大学の研究者たち～	1
【長崎県の近代化遺産シリーズ3】 巨大建造物の歴史的遺産・佐世保と対馬	11
【下村脩名誉博士顕彰記念館】	14
【いいたか放題】 (有)長崎建築社 取締役室長 平野啓子さん	16
【長大ニュース】	18
【ボードイン・コレクション】 幕末・明治を知る西洋の男たち③ 近代西洋医学の父、ポンペ	20
【インフォメーション】・【編集後記】	21

本誌記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報誌 CHOHO 号から」と明記してください。
学外の方は、事前に広報企画委員会までご連絡願います。